

関川小学校卒業式



夢を語った49人の卒業生 力強く踏み出した新たな一歩

春の陽気に包まれた3月24日、関川小学校で4回目となる卒業証書授与式が行われました。今年の卒業生は49人。初めて袖を通した真新しい制服に身を包み、式に臨みました。

式では鈴木政信校長が「最高学年として下級生にやさしく教えている姿は立派でした。中学生になるみんなには、人・物・時を大切にしてもらいたい。これまでみんなを温かく見守ってくれた家族、地域の方々、先生方、友人はもちろん、自分たちが使う物も大切にしてほしい。これから始まる中学の3年間はあっという間に過ぎる。目標を高く持って、一日一日を大切に過ごしてください」と卒業生にメッセージを贈りました。

卒業証書授与の後、ステージ上で将来の夢を語った子どもたち。その夢の実現に向けて、力強く新たな一歩を踏み出しました。

大切な仲間と過ごした3年間 たくさんの思い出を胸に卒業

春の訪れを間近に控えた3月7日、関川中学校で「第9回卒業証書授与式」が行われ、51人の卒業生が新たな一歩を踏み出しました。

卒業証書授与では、野澤一吉校長から一人ひとりにメッセージが贈られ、晴れやかな表情で証書を受け取った卒業生たち。その姿を式に同席した保護者のみなさんは温かく見守っていました。

卒業生を代表して新野樹さん（南赤谷）が「今振り返ると、周りの人たちに支えられていろいろと乗り越えてくることができました。この3年間、かけがえのない思い出をつくることできたのは51人の仲間がいたから。本当に感謝しています。そして誇りに思います。これからは、それぞれの道へ進みますが、自分自身の道を切り開いていきましょう」と答辞を述べ、51人の卒業生は思い出の校舎をあとにしました。



関川中学校卒業式

村の自殺の現状を知ってもらい、悩みを抱えている人に対する話の聴き方を学ぶ自殺予防の研修会が、2月26日、村民会館を会場に開催され、一般村民や民生委員、健康推進員など約20人が参加しました。これは、村と村上保健所、県精神保健福祉センターの共催で、今年で6年目。

研修会では、村の保健師から村における自殺の現状を説明。その中で「過去30年間、自殺者がゼロだった年は一度もなかった。男性が7割、女性性が3割を占めている。数年に一度、自殺者の多い年があるが、自殺予防には村民の力が必要」といった報告がされ、また、講師を務めた新潟のちの電話の渋谷志保子さんは自身の活動を基に「聴く側の姿勢によって話す方の気持ちも変わってくる。相手には、いつでもちゃんと見ているよ」というメッセージを送ることが大切」と語りました。

相手に寄り添って聴く力 が大きな支え

～自殺予防メンタルヘルス
サポーター養成研修会～



米沢街道をもっとたくさん
の観光客に知ってもらいたい
と、3月3日、農村文化交流
センター「のくむ」を会場に
関川村まちづくり講座が開催
されました。主催は米沢街道
地域づくり検討会（米野紀男
会長・上関）で、講座には検
討会のメンバーや行政関係者
など約20人が参加。
当日は、新潟市にあるNP
O法人まちづくり学校の和田
一良さんと安田文子さんを講
師に招き、村の資源を活用し
た企画と、その仕組みづくり
について講話がありました。

その中で「関わる人たちの
人間性を高め、共感を生む仕
組みづくりが継続につながる。
自立した村だからこそ、行政
JA、NPOとの連携が大切」
と参加者にアドバイスを送り
ました。
また、米沢街道地域づくり
検討会の米野会長は「米沢街
道を活用した村の活性化のた
めに、村観光情報センターを
拠点としてPR活動を行いた
い。村のガイドブックを作成
し、ゆくゆくは、メンバーで
休日の観光ボランティアがで
きれば」と話していました。

ゆくゆくは観光ボランティアも 村の資源を活用した 米沢街道の活性化を考える

～ 関川村まちづくり講座 ～



医師と地域住民の健康交流会 ～ 坂町病院健康ナイトスクール ～

3月26日、県立坂町病院の医師が講師を務めた
講演会「坂町病院健康ナイトスクールなんじだね」
が村民会館大ホールで開催され、村内外から約100
人が参加しました。これは、医療情報などを発信す
ることにより、地域住民の健康増進や介護予防の促
進を目的として開催されたもの。

当日は、同病院の鈴木薫院長や近幸吉内科部長、
富田広外科部長が講演を行いました。在宅医療への
取り組みをテーマに講演した近医師は「坂町病院で
は月に約30件の訪問診療を行っている。本人がど
ういう医療を受けたいのか、患者の意思を尊重する
ことが大切。親しい人や家族に看取られながら、最
期を迎えるのが一番いいことだと思う」と報告しま
した。

講演を聞いた高橋健司さん（上土沢）は「本人の
意思を尊重し医療を提供するという話が印象的でし
た。今後はもっと設備の充実した病院になってくれ
たら」と話していました。



森林の大切さを学んでほしい 県が小学校に副読本を贈呈

2月28日、村上地域振興局で、いわふねの森
啓発促進事業「森林・林業副読本」の贈呈式が
行われ、村から野沢専治教育長が出席しました。

副読本は、子どもたちに森林・林業の大切さ
を理解してもらおうと村上地域振興局と岩船・
村上緑化推進連絡会議が作成したもの。森林の
さまざまな働きや川との関係など、14ページに
わかりやすく掲載されています。

村上地域振興局の佐々木綾子局長は「村上地
域は県内一の木材生産地であるが、子どもたち
にあまり知られていない。本には、この地域の
巨木や名木のほか、先人たちの苦労が掲載され
ている。この本を用いて多くの子どもたちに学
んでもらえれば」と期待していました。

今回贈呈された副読本は、小学校中学年向け
の教材となっていて、今後4年生の授業で活用
される予定です。